

水と人間の共存

兵庫県 兵庫教育大学附属中学校 二年 上田 悠智

僕は保育園児の頃にアメリカに行った。その時に大伯母から「水道水を飲むな」と言われた。日本では水道水を飲んでもいいのになぜアメリカでは飲んではいけないのかと僕は今になって思った。調べてみると配管の老化、水質汚染などで飲めない場合があると分かった。アメリカは地方によって水の安全性が違う。そう考えると日本は素晴らしい国だ。安全な水をいつでもどこでも飲むことができるからだ。そこで僕は「日本はなぜ安全な水道水を飲むことができるのか」と考えた。日本は厳格な水質処理や徹底的な浄水処理、インフラ整備などを行っているからと分かった。水処理では沈殿やろ過を行って不純物を除去し、塩素消毒で病原菌を殺菌し、水質管理は残留塩素の濃度が基準を超えないように厳しく管理されている。このようにして日本は安全な水を作っているから水道水が飲める。

先日、ラーメン屋に行つた際にすぐに水が無料で出された。しかしアメリカのレストランではそのようなことは無く、水を注文しなければいけなかつた。飲み水の値段はコーラやサイダーより高い。大伯母が住んでいるサンフランシスコの近くはもともと乾燥しており水の値段が高くなつていて、サンフランシスコには川が無いと兄から聞いた。ヨセミテ公園というところから水を運んでいるそうである。サンフランシスコからヨセミテ公園の距離は東に約三百キロ離れている。そのため水を運ぶのにたくさんのお金を使う。だから水の値段が高いそうだ。大伯母はそれでも風呂の水を沸かしてくれた。お風呂に浸かる事が大好きな僕たちはとても嬉しかつた。

大船渡で山火事が発生し、空中消火などを行つていたが、アメリカのカリフオルニア州は山火事が起きてても近くに住宅地が無い限り消す事はなく自然消火を待つ。しかし今年の一月に起きた山火事では近くに住宅地があつたため火を消そうとした。しかし近くで使える水が少なかつた

ため住宅地も燃えてしまつた。とても不幸なことである。

この経験から考えると日本はやはり水が豊富である国だと感じる事ができた。しかし中にはそうではない国がある。アフリカなどの乾燥している地域では、少量の不衛生な水を得るためだけに六時間以上病気の体で歩かされることがあるのだ。さらにその水が原因で病気や伝染病が起き、毎年いくつもの幼い命が刈り取られている。そんな日本も江戸時代では兵庫県の干ばつで水不足が起きたため、幕府は淡路島や加東市などにたくさんの溜め池を作つて水不足を解決した。日本でも水の有効利用ができなかつた時代があつたのだ。

千九百四十一年のマレー大戦の時、日本軍はイギリス軍のマレー半島にある本部に繋がつてゐる水道を破壊した。その際イギリス軍は水不足によって士気が低下した。さらにアフリカでは井戸をめぐつて戦争が起き、最終的には井戸を破壊するはめになつた地域もあつた。弥生時代の日本は水の取り合いで戦争が起きていた。僕は水が人間の命を繋ぐとともに、争いの原因になるということを考えた。

最後に水と人間は生きしていくにつれて非常に大きな関わりを持つていることが分かつた。我々はいつか無くなるときが来るかもしれない水を大切な存在として使っていくことが生きしていくうえで重要なすべきことなのだと考えた。水は生き物や人間の命を繋ぐだけではなく、人間の欲望や心情なども繋ぐことができるのではないか。そして人間はその事が分かつても水の取り合いで戦争を続けていたのだろう。血を流すためだけに水を得るならば、そもそも水を必要としなければいいのではないか。しかし生きるために、そういうわけにはいかない。僕らはこれを考えながら水について一つずつ学ぶべきなのだろう。